

ドライブレコーダー映像を消防活動に活用する実証実験の開始 (トヨタ×京都市)

京都市消防局では、トヨタ自動車株式会社と共同し、ドライブレコーダーを用いた映像活用システムの実証実験を行います。つきましては、次のとおり開始式を行います。

1 日時

令和6年12月6日(金)

午前10時から同10時20分まで

2 実施場所

京都市役所本庁舎 4階 正庁の間

(〒604-8571 京都市中京区上本能寺前町488番地)

3 出席者

(1) 京都市長 松井 孝治

(2) 京都市消防局長 名畑 徹

(3) トヨタ自動車株式会社 事業開発本部 本部長 なかにし いさお 中西 勇太

(4) 協力事業者

MK株式会社・きょうと京北ふるさとバス公社・京都市交通局・醍醐コミュニティバス
市民の会・西日本ジェイアールバス株式会社・都タクシー株式会社・彌榮自動車株式会
社・株式会社ヤサカバス



4 式次第

(1) 挨拶

(2) システム説明

(3) 協力事業者紹介

(4) 写真撮影

5 その他

取材に来ていただける場合は、午前9時45分までに正庁の間にお越しください。

ドライブレコーダーを用いた映像活用システムについて

1 概要

ドライブレコーダーを用いた映像活用システム（以下「映像活用システム」という。）は、市内を走行する路線バス、タクシー等（協力事業者）に専用ドライブレコーダーを設置し、災害状況の確認が必要と判断した場合に、京都市消防局の消防指令センターにおいて災害地点付近を走行中の車両のドライブレコーダー映像を確認します。

映像活用システムを使用することで、出動中の消防車等に災害状況を伝達することができ、消防隊等が現場到着前に災害状況を把握することが可能となります。

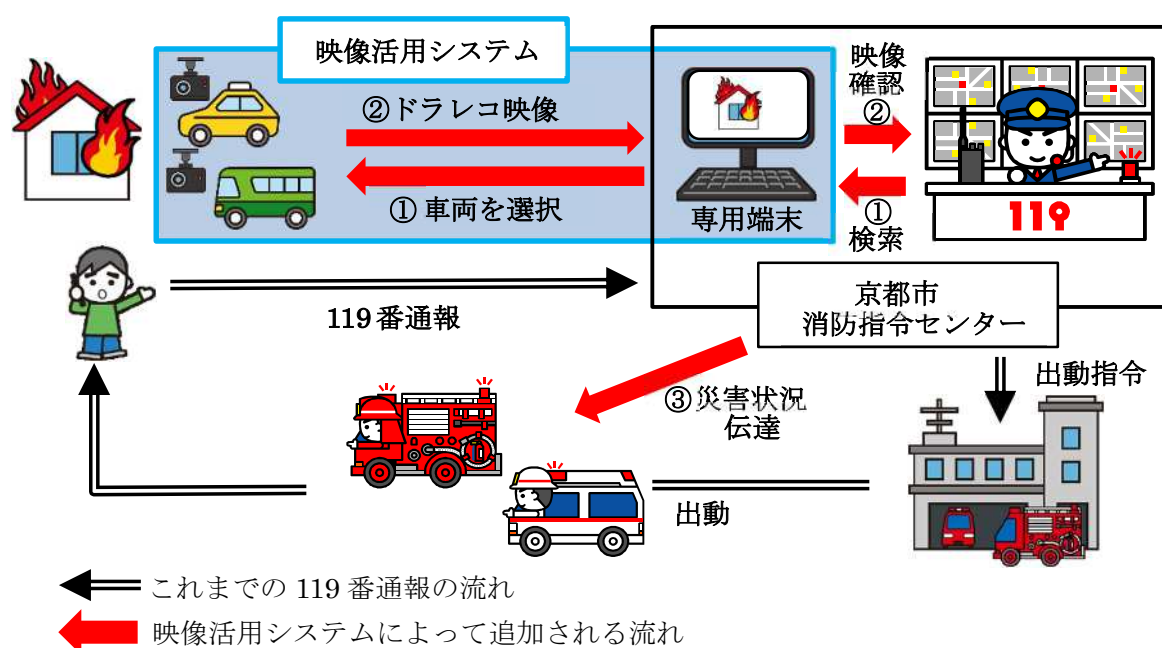
2 実証期間

令和6年12月6日（金）から令和9年3月31日（水）まで

3 システム運用について

(1) 運用方法

- ① 消防指令センター員が119番通報状況から、災害状況の確認が必要と判断した場合に、災害地点付近の車両を検索し、車両を選定する。
- ② 選定した車両のドライブレコーダー映像を確認する。
- ③ 出動途中の消防隊等に消防指令センター員が無線で災害状況を伝達する。



(2) ドライブレコーダー設置数

約 5 0 0 台

※運用開始時は、約 2 0 0 台を想定。

順次増設し、令和 7 年 3 月末時点で約 5 0 0 台を予定。

(3) 期待される効果

消防隊等が災害現場到着前に災害状況を確認できるため、以下の効果が期待されます。

ア 適切な部隊の選定

火災規模や交通事故状況から消防隊や救助隊を増隊するなど、消防指令センターが災害状況に応じて、より適切な部隊の選定が可能となり、より早く災害対応ができます。

イ より効果的な消防活動

出動中の消防隊等が早期に消防活動方針を検討し、現場到着後、速やかに消防活動を開始できることから、災害被害を軽減できます。

ウ 消防隊等の現場到着時間の短縮

災害現場周辺に渋滞などが発生していれば、消防指令センターが出動中の消防隊等に渋滞迂回ルートを誘導することで、現場により早く到着することができます。